

今日の説教のポイント<創世記 19 章 1～29 節>

①ソドムはなぜ滅ぼされたのか？ その罪に注目。

旅人を「なぶりもの」(5)にしようとし、それを阻止しようとしたロトまで痛い目にあわせようとしたソドムの男たち。ここには滅ぼされても仕方がないと思えるような人間の罪の姿が描き出されています。しかし、果たして私たちは「自分は違う」と言えるのでしょうか？自分の思いを叶えるためには、あるいは自分を守るためには、他者の苦しみに平気で目を閉ざせるのが私たち自身ではないでしょうか。

②それでもソドムは滅ぼされた。しかしロトは救出された。

だからこそ、自分の娘を差し出して旅人を守ろうとしたロトの行為に私たちは驚かされます。それは娘たちだけでなく、自分の命も差し出した行為でした(9)。「自分がどうなっても、これは貫くべき正しい行為」、そう覚悟を決めて行ったのです。

この後、神様の救いの手が差し伸べられ、ロトと娘たちが救い出された次第が記されていきます。神様は正しい者ロトが現れたのにソドム滅亡を貫徹された、と同時に、正しい行為を貫いたロトは滅ぼされなかったのです(18章と矛盾?)。また、ロトの救出にあたっては、彼の願いを聞かれて、最初に命じられたことを変更して下さってもいます(21)。神様のなさることの矛盾を突くよりも、そこに込めて下さった神様の恵みの深さを思い巡らさなければなりません。

③さらに思い巡らすべきこと。ロトはキリストに引き継がれていく！

自分の娘と自分の命を差し出して旅人を守ろうとしたロトは、神様が私たちの罪を赦すために与えて下さったイエス・キリストに引き継がれます。「彼が刺し貫かれたのは私たちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのは私たちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによって私たちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって私たちは癒された」(イザヤ 53:5)。ロトの正しさは人々の罪を贖うことはできませんでした。しかし、神様は御子キリストの死にその力を与えられたのです。この恵みを信じて新たに生きる者がキリスト者なのです！